

学校における博学連携の実践

開陽高等学校全日制 地理歴史公民科 横峯達也

1 はじめに

現在、開陽高等学校（全日制）に地歴公民科の教諭として勤務し2年目になる。初任校研修2年目の課題研修で「学習意欲を高めるための授業実践」という研究主題を掲げた。学習意欲を高め、学力向上を図るための方策の1つとして「博学連携」を設定した。博学連携とは、博物館と学校が相互に連携協力して生徒の教育に当たる取り組みのことである。地歴公民科の取り扱う内容は多岐にわたり、自分自身も見たことのない資史料や体験したこともないことを説明しないといけないことも多い。そこで、鹿児島県歴史資料センター黎明館や鹿児島県立図書館などの地域の教育資源を利活用し、生徒の興味関心を高め、理解をより一層深めようと考えた。ここでは、取り組んだ内容についてまとめることとした。

2 博学連携のねらい

教師や教科書から教わるのではなくて、実物資料に関わりながら直接体験させることによって、教科書の枠を超えた学びを創出し、生徒一人一人に「自ら発見して、自ら考える」機会をつくるのがねらいである。

そのために学校側として、(1) 博物館等の利用 (2) 博物館等と連携した教材づくり (3) 体験型授業の3点に焦点を当てたい。

3 取り組み

・事前準備

初任校研修の一環である地域貢献体験研修で鹿児島県歴史資料センター黎明館に行かせて頂いた。1日目は、学芸課にお世話になり、資料の調査編集業務や第一次長州征討時のものと思われる「西郷から土持氏への手紙」の法量測定や記録業務のお手伝いをさせて頂いた。2日目以降は、黎明館が主催する学習支援講座「エンジョイ黎明館」に参加した。3日間の研修で、実際の資史料に触れることの意義を実感するとともに、学校教育での利用の仕方など、博学連携の取り組みを行うにあたっての大きなヒントを得ることができた。

(1) 黎明館見学レポート

担当する授業で「黎明館見学レポート」を冬季休業中の課題の1つとした。内容は学習支援講座「エンジョイ黎明館」にて配布された資料の中に、博学連携の具体例として紹介されていた、東谷山中学校が平成28年度に実践したものを活用させて頂いた。課題の内容は、以下の通りである。

【課題1】観覧チケットを以下にのり付けしなさい。

【課題2】常設展示を見学し、以下の江戸時代の薩摩藩に関する問いに答えなさい。

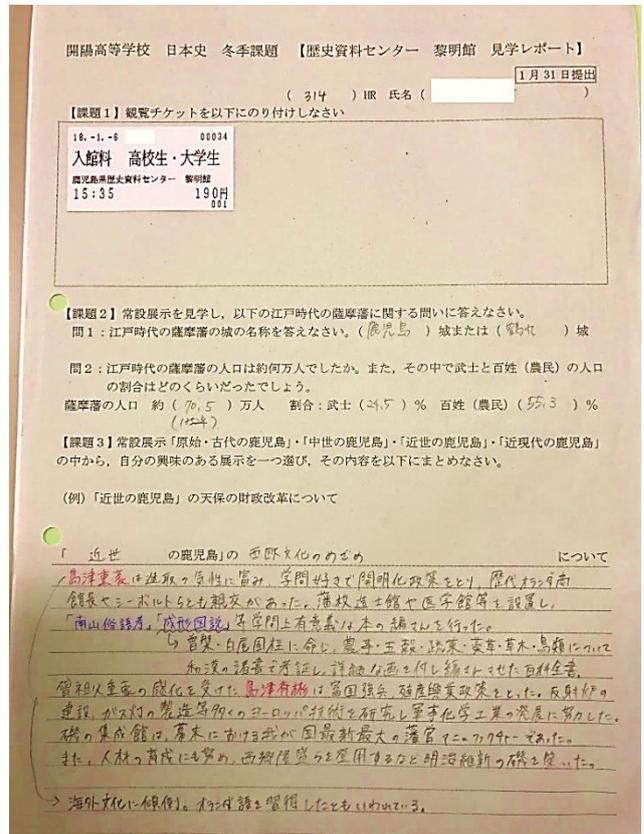
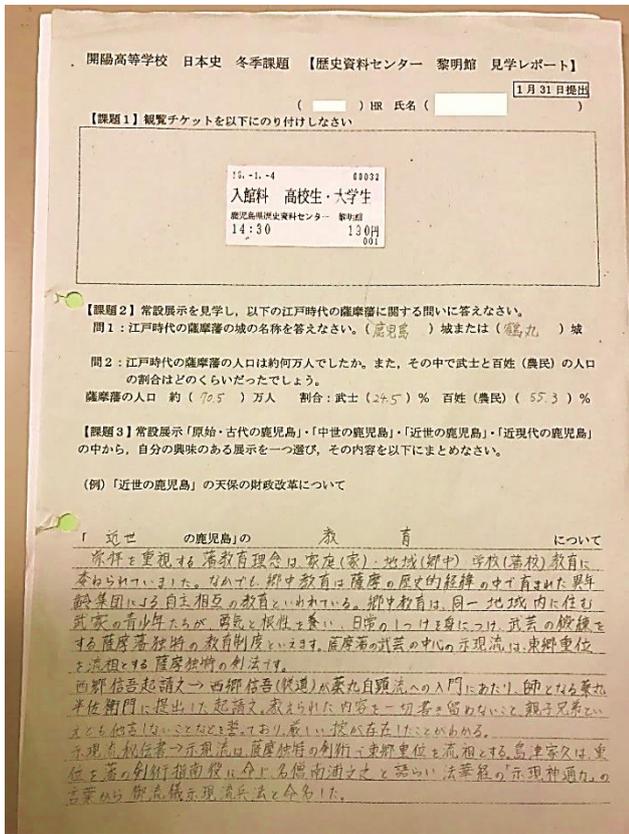
問1：江戸時代の薩摩藩の城の名称を答えなさい。()城または()城

問2：江戸時代の薩摩藩の人口は約何万人でしたか。また、その中で武士と百姓（農民）の人口の割合はどのくらいだったでしょう。

薩摩藩の人口 約()万人 割合：武士()% 百姓（農民）()%

【課題3】常設展示「原始・古代の鹿児島」・「中世の鹿児島」・「近世の鹿児島」・「近現代の鹿児島」の中から、自分の興味のある展示を一つ選び、その内容を以下にまとめなさい。

日本史A受講者26名のうち11名が黎明館に足を運び、見学レポートを提出してくれた。以下、実際に本校生徒が作成した「黎明館見学レポート」である。



※左は「近世 鹿兒島の教育」について、右は「近世 鹿兒島の西歐文化」についてまとめてある。

(2) 県立図書館と連携したNIE活動

本校では全校生徒を対象に、「コラム購読」という NIE 活動を行っている。教師や新聞委員会が新聞記事を選び、それを読んで感想を書くというもので、年間 13 回実施している。NIE については担当する科目の中で実践しているが、博学連携の視点に立ち、さらに教科の枠を超えて何かできないかを考えていた。

2017 年 12 月 3 日の朝日新聞に、鹿兒島県立図書館が開催する貴重資料紹介展についての記事が掲載されていた。その記事によると、貴重資料紹介展の中で「郷土の偉人人気ランキング～投票しよう！わたしの好きな偉人は〇〇です。」という企画を、平成 29 年 12 月 5 日から平成 30 年 2 月 22 日までの期間で実施すると記載されていた。

その企画と同様のものを本校の NIE 活動を通して実践できないか、鹿兒島県立図書館の資料課に相談したところ、快諾して頂いた。

右の写真が実際のコラム購読である。偉人の業績については、県立図書館職員の推薦文や黎明館、観光かごしま大キャンペーン推進協議会事務局等の資料を参考に 2～3 行で作成した。(別紙「幕末・明治維新时期に活躍した西郷隆盛とゆかりのある郷土の偉人」)

コラム購読 第 10 号
平成 29 年 12 月 18 日
地歴公民科 横峯 達也

2017 年 12 月 3 日 (日) 朝日新聞 掲載

郷土の偉人 あなたの 1 位は？

人気投票、県立図書館が企画

投票しよう！ わたしの好きな郷土の偉人
——。5 日から県立図書館で始まる今年度の第 2 回貴重資料紹介展で、人気投票を同館が企画している。幕末・明治維新时期に活躍した、西郷隆盛とゆかりのある郷土の偉人を一人でも多く知ってもらおうというもの。
紹介展は来年 2 月 22 日まで開かれ、人気投票は開催期間を通じて行う。西郷や島津斉彬、大久保利通ら 21 人を同館があらかじめノミネート。この中から 1 位から 3 位までの 3 人を選ん

来
年
の
2
月
2
2
日
ま
で

で投票。1 位は 3 点、2 位は 2 点、3 位は 1 点として計算し、合計点で順位を競う。1 月下旬ごろに中間発表し、各偉人の順位を公表。2 月の閉館時期に最終的な順位を発表する。
21 人の中には、有名な偉人以外に、元家老で西南戦争の城山で西郷と生死を共にした桂久武、西郷らと下城武士らの縁組・城出組を結成した岩下芳半、生没事件や江戸城無血開城などにかかわった海江田信義ら、県民にあまり知られていない偉人も、同館の職員ら、資料課長は「人気投票に気軽に参加してもらい、郷土の偉人に興味を持ってもらえたら」と話している。(可田正晴)

現在、県立図書館で「郷土の偉人 人気ランキング～投票しよう！わたしの好きな偉人は〇〇です。」という企画をやっています。本校でも同様の取り組みを行い、歴史に興味を持ってほしいと思います。

【方法】
別紙「幕末・明治維新时期に活躍した西郷隆盛とゆかりのある郷土の偉人」の人物名と業績をみて、好きな人物を 3 人選んでください。

歴史は様々な人物のストーリー。偉人たちの困難に立ち向かう姿を知り、強く目標に向かえる力を身につけてください。

切りとり

【感想】コラム第 (10) 号 学籍番号 () 氏名 ()

1 位	
2 位	
3 位	

別紙 幕末・明治維新时期に活躍した西郷隆盛とゆかりのある郷土の偉人 コラム 10号

※（ ）の俳優は、大河ドラマ『西郷どん』でのキャストです。

西郷 隆盛（鈴木亮平）・・・維新三傑の一人。藩主 島津斉彬に見いだされ、活躍。斉彬の死後は2度の島流しを経験。明治6年には朝鮮への使節派遣の主張が通らず下野。私学校を開設し子弟教育に専念。西南戦争で自刃する。

西郷 従道（錦戸 亮）・・・西郷の弟。血気盛んな性格で、戊辰戦争にも従軍。明治新政府では、西郷は大久保らと袂（たもと）を分かち、従道は明治政府に残り“西南戦争”で兄を追い詰める側に立つ。

愛加那（二階堂ふみ）・・・西郷2人目の妻。生命力にあふれ、誰にも媚こびない奄美の娘。島送りとなった西郷を救い、結婚。子宝にも恵まれ、西郷に愛と生きる喜びを教える。

西郷 糸子（黒木華）・・・西郷3人目の妻。西郷との間に3人の子供を産む。寺田屋事件で襲われ大けがをした坂本龍馬と妻のお龍をかくまったことで、龍馬からの信頼も厚い。

西郷 菊次郎・・・奄美配流中の西郷と愛加那との間に生まれる。鹿児島英語学校で学び、2年間米国に留学。西南戦争に従軍、片足を失う。外務省に入省し、長く勤務。その後、京都市長に就任し公共事業を推進した。

島津 斉彬（渡辺謙）・・・西郷を見出した11代薩摩藩主。「二つビンタ」と呼ばれるほど英明。身分にとらわれず優秀な才能の人物を抜擢して、日本の近代化の礎となる集成館事業を推進。

島津 忠義・・・薩摩藩最後の藩主。集成館事業を再開し、朝廷・幕府・他藩との駆け引きや工作には西郷らを起用し、明治維新において主導権を握った。

島津 久光（青木崇高）・・・斉彬の異母弟。西郷との仲は微妙で、命に背く西郷を沖永良部島に流すなど、西郷を悩ます。保守的な性格だが、久光なくして薩摩藩一体となつての行動はあり得なかった。

篤姫（北川景子）・・・13代将軍徳川家定に嫁ぐ島津家の姫。戊辰戦争で実家島津家と嫁ぎ先の徳川家が対峙することになるが、徳川家存続を請う嘆願書を出すなど和解に向けて尽力。（江戸無血開城において）

小松 帯刀・・・若くして幕末の薩摩藩家老となり、藩政改革に取り組む。また京都では朝廷や幕府、諸藩との連絡・交渉役を務め、特に大政奉還において活躍。

岩下 方平（いわした みちひら）・・・薩摩藩の上級武士で、島津久光のブレーン。下級武士の集団「誠忠組」の結成に関わり、薩英戦争では交渉役を務めた。パリ万博では使節団を率いてフランスへ渡航。

桂 久武（井戸田 潤）（かいつら ひさたけ）・・・西郷はとても親しく、愛加那や息子・菊次郎の面倒をみる。生涯西郷を支え、西南戦争の城山で生死を共にした。

大久保 利通（瑛太）（おおくぼ りつと）・・・西郷の幼馴染。維新三傑の一人。島津久光のもとで頭角を現し薩英戦争でも講話に尽力。明治政府では内務卿として新政府を牽引。私財を投じて国に尽くすも、紀尾井坂の変で暗殺される。

吉井 友実（よしい ともざね）・・・薩摩藩士。若手改革派として、藩政改革で活躍。また鳥羽伏見の戦いでも多大な功績をあげた。維新後は日本鉄道会社（日本初の私鉄会社）の社長などをつとめる。

海江田 信義（高橋光臣）（かいえだ のぶよし）・・・西郷や大久保と共に学ぶ。生麦事件で、大名行列を遮ったイギリス人に止めを刺した人物として知られる。江戸城無血開城にも関わる。維新後は奈良県知事、貴族院議員。

黒田 清隆（くろだ きよたか）・・・戊辰戦争では五稜郭にたてこもった榎本武揚などを降伏させ、生命をかけて彼の命を助けた。クラーク等を招き、北海道開拓と教育の基礎を築く。大日本帝国憲法発布のときには内閣総理大臣であった。

大山 巖（おおやま いわお）・・・西郷の従兄弟。戊辰戦争では自らの設計した砲を抱え各地を転戦。維新後は陸軍で活躍、西南戦争を鎮圧。伊藤・黒田・山県・松方内閣の陸軍大臣。日清・日露戦争でも勝利に大きく貢献した。

桐野 利秋（きりの としあき）・・・文久2年に島津久光の上洛に伴い上京し、京都を中心に活躍。明治維新後も西郷を慕い、明治6年には鹿児島に下野、西南戦争に従い城山で戦死。

篠原 国幹（のほら くにもと）・・・戊辰戦争では東海道から東北地方で戦い活躍した。かねては無口で、時間に厳しいことでも有名であった。西南戦争では、1番大隊長として田原坂の戦いを指揮した。

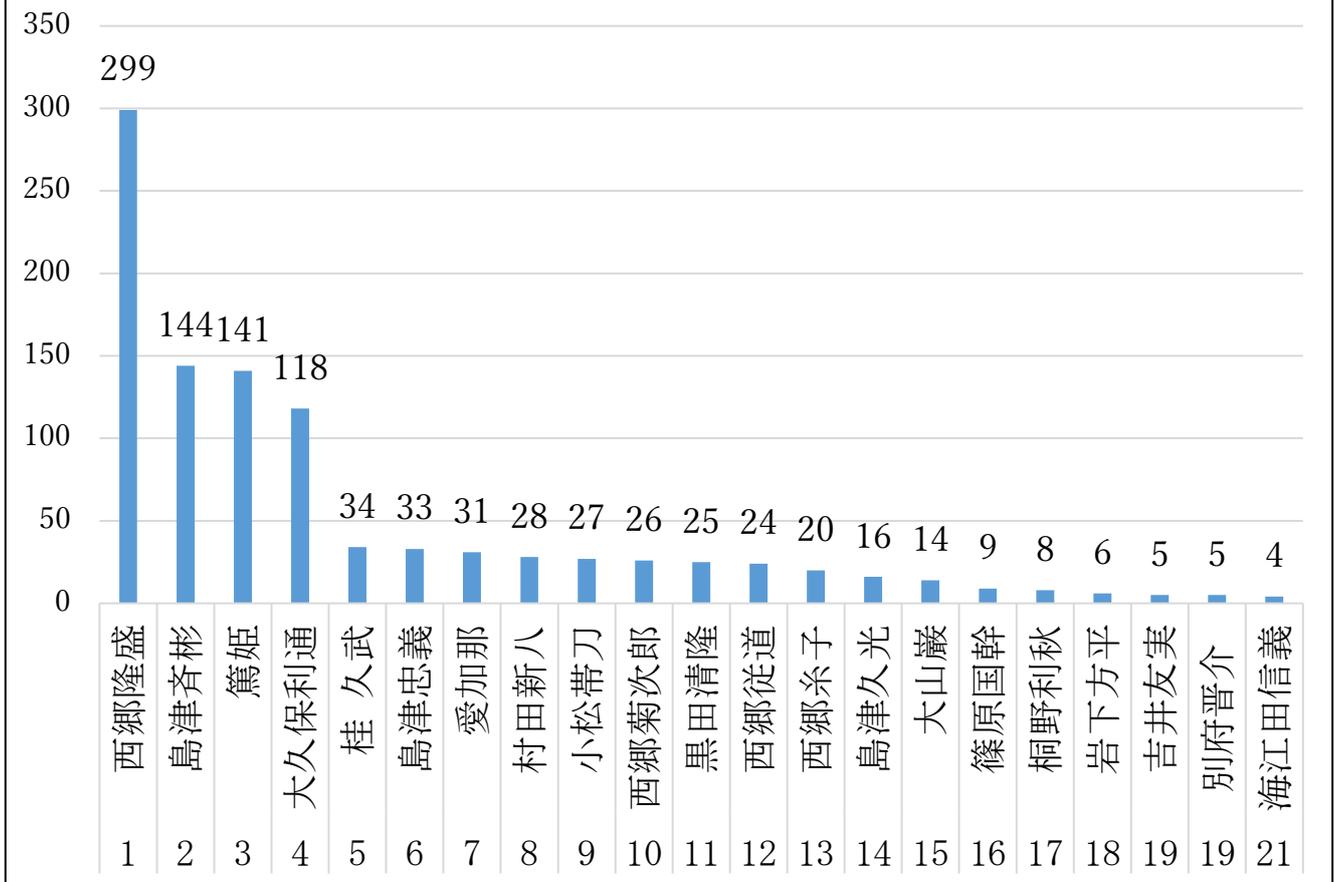
村田 新八（堀井新太）（むらた しんぱち）・・・幼少の頃から西郷に従う。西郷や篠原国幹たちと私学校をつくり、砲隊学校の校長格として青少年たちの指導にあたる。西南戦争では西郷の死を見届け、後に戦死。

別府 晋介（べつぷ しんすけ）・・・戊辰戦争で活躍後、朝鮮を視察し情勢を報告した。西郷が鹿児島に帰ったのに従い、自らも辞めて帰郷し私学校の創設に尽力。西南戦争では城山で西郷を介錯し、戦死した。

投票結果については、1月中旬に中間結果を発表し、2月上旬に最終結果を発表した。生徒には①「郷土の偉人21人 人気投票」最終結果 ②順位と合計点 グラフ ③選んだ理由など ④開陽高校生 全日制による人気投票 TOP 5（鹿児島県立図書館職員による各偉人についての推薦文つき）をまとめたものを配布した。

① コラム10号「郷土の偉人21人 人気投票」 最終結果															
順位	人物	合計点	各HRの合計												
			111	112	113	114	115	121	212	213	214	215	313	314	321
1	西郷隆盛	299	18	14	16	20	25	29	13	21	20	18	16	28	61
2	島津斉彬	144	10	12	11	12	5	14	11	20	9	12	11	7	10
3	篤姫	141	12	4	0	11	13	21	8	15	12	4	11	14	16
4	大久保利通	118	6	5	12	9	6	11	8	11	10	3	9	7	21
5	桂久武	34	0	2	0	6	2	1	5	2	1	3	3	2	7
6	島津忠義	33	0	5	0	0	0	3	3	1	0	2	2	2	15
7	愛加那	31	1	3	3	0	6	7	2	3	0	0	3	3	0
8	村田新八	28	0	3	2	1	0	8	3	0	3	2	0	0	6
9	小松帯刀	27	2	2	2	1	1	0	6	0	2	3	4	4	0
10	西郷菊次郎	26	12	2	0	2	0	0	0	5	2	0	1	1	1
11	黒田清隆	25	2	1	0	2	2	6	5	0	0	0	1	0	6
12	西郷従道	24	4	0	0	3	3	0	4	2	1	0	3	1	3
13	西郷糸子	20	3	1	0	2	0	0	1	4	0	3	0	2	4
14	島津久光	16	0	2	7	0	0	2	2	1	0	0	2	0	0
15	大山巖	14	0	0	0	0	0	0	5	1	1	1	0	1	5
16	篠原国幹	9	0	0	1	0	1	0	0	0	2	2	0	3	0
17	桐野利秋	8	0	0	3	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0
18	岩下方平	6	0	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0
19	吉井友実	5	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1
19	別府晋介	5	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
21	海江田信義	4	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1
回答数		173	12	11	10	13	11	17	13	15	11	9	11	13	27

② 「郷土の偉人 21人」 順位と合計点



③ 選んだ理由など

西郷 隆盛 (1位) ・さいごうどん ・鹿児島で有名であるから ・一番印象深い人だから
 ・時代にとらわれずよりよい日本を作ろうとした人だから ・ゲーム等で強いキャラクターだから
 ・近代化, 対ロシアへの先見があったから ・「誰かのために」という想いを感じる人だから
 ・維新三傑の1人で鹿児島が誇る人物だから ・明治維新三傑の1人。教育に力を入れた人
 ・やはり鹿児島を語る上で、外せない人物であるから
 ・鹿児島の偉人といったらこの人であり、全国的にもよく知られているから

島津 斉彬 (2位) ・しまづ なりあきら ・島津家と言えはこの人 ・斉彬がいなければ今はないと思うから

・ドラマを見ていて「こんな人が父だったら、人生どうなったんだろう」と思えて、戦国時代には珍しい「身分にとらわれず」というのが良いと思ったので ・日本の近代化の基礎を作った人
 ・身分にとらわれず、優秀な才能をもち凄いと思ったから ・西郷を抜擢したことが凄いと思った
 ・地元で集成館があり、小・中学校の郷土学習で調べたことがあったから

篤姫 (3位) ・嘆願書を出して和解に向ける良い人 ・姫として一生懸命尽くしたから

・江戸無血開城に尽力し、大河ドラマにもなった ・和解に向けて尽力したから
 ・女性でも和解に向けて、頑張っていたところが好きです
 ・何年前前の大河ドラマを見た時に、篤姫が苦しい中でも生きていく姿に感動したから

大久保 利通 (4位)

- ・鹿児島から明治政府を支える一員になったので凄いと思ったから
- ・ネプチューンの原田さんのイメージが強く、袂を分かつときのシーンで自分も泣きそうになるという…小3ですが
- ・鹿児島だけでなく、政界においても活躍したから
- ・明治維新三傑の1人。明治新政府を牽引した人物
- ・中央駅の仏像にあるから
- ・政治により多くの関わりをもった人物として印象が深い

桂 久武 (5位)

- ・西郷に加えて家族とも深いつながりがあったから

小松 帯刀 (6位)

- ・大政奉還において活躍した秀才

- ・大河ドラマ「篤姫」を見ていた影響が、すごく印象に残っています。仕事量が多い人だなあと

愛加那 (7位)

- ・西郷を救った人だから
- ・誰にも媚びないところが好きです

- ・凄く苦しい時って、愛とか喜びとか忘れちゃう。苦しい時に愛や喜びを忘れない人は強いと思う

西郷 菊次郎 (9位)

- ・戦いにも出て、片足を失っても働き続けたから

西郷 従道 (10位)

- ・西南で隆盛と敵対するという、悲しい出来事があったから

島津 忠義 (12位)

- ・薩摩が他の藩から落とされなかったのは、島津の働きのおかげだから

- ・入来文書を作った一族だから

島津 久光 (13位)

- ・保守的な性格が好きです

西郷 糸子 (14位)

- ・坂本龍馬の妻 お龍をかくまった優しいところ
- ・龍馬とお龍をかくまい助けたから

篠原 国幹 (15位)

- ・無口で言葉が少なくても隊長として隊を率いたことが凄いと思った

大山 巖 (16位)

- ・西郷のいところ
- ・軍人として、戦争でも日本の勝利に貢献したから

吉井 友美 (19位)

- ・電車が好きなので

別府 晋介 (20位)

- ・さいごうさんについていった

④ 開陽高校生（全日制）による人気投票 TOP 5



第1位

西郷 隆盛 ～明治維新の最大の功労者～

明治維新の功労者であると共に、民衆から愛と親しみを込めた愛称「西郷どん^{せごどん}」で呼ばれるほどの親しみやすさを兼ね備えた偉人です。「西郷どん」の言葉をまとめた『南州翁遺訓』は現代にも通じる教訓を秘めています。



第2位

島津 斉彬 ～西郷の才能を見出した藩主～

薩摩藩第11代藩主。集成館事業を興し、富国強兵、殖産興業を進めました。また、人材発掘にも積極的で、下士階級の西郷隆盛や大久保利通を登用しました。藩主の期間は、わずか7年半でしたが、日本史上に残る「名君」と言われています。



第3位

篤姫 ～薩摩を胸に生きた気概のある最後の大奥～

徳川家定に嫁いだ斉彬の養女。忍耐力があり、懐も深い温和な才女だったようです。故郷を思いつつ、徳川家に嫁した覚悟を最後まで貫き通し、江戸城無血開城に尽力しました。そんな気概に満ちた彼女の生き方はとても素敵です。



第4位

大久保 利通 ～有能で最も勇気のある政治家～

西郷隆盛らと国事に奔走し、明治維新の重要な役割を果たしました。維新後は、富国強兵・殖産興業をスローガンに近代国家の基礎づくりを進めました。「現実を決して忘れない最も有能な事務家的政治家であるとともに、最も勇気のある人」と言われています。



第5位

桂 久武 ～西郷と運命を共にした親友～

西郷隆盛と年齢が近く、同じ政治思想を持っていたことから互いに信頼関係を築き、奄美大島派遣時には愛加那の面倒も見ています。家老就任後には維新後を見据えて霧島の開拓にも着手していますが、西南戦争で西郷と生死を共にする義に厚い人物でした。

※枠内は鹿児島県立図書館職員による各偉人についての推薦文より

(3) 外部講師による体験型授業

日本史 B 受講者 10 名を対象に、外部講師と連携した体験型授業を実施した。生徒に鎌倉仏教についての理解を深めてもらおうと考え、谷山地区にある松雲寺の副住職 宮山顕城氏に来校していただいて旧仏教と新仏教の違い、浄土真宗の特徴や*御文などについて説明していただいた。

授業の後半には修行体験として、全員でお経を読んだ。そのねらいは、鎌倉時代に様々な悩みを抱えていた武士や民衆が、念仏を唱えることで彼らの内面にどのような変化があったのか、また本当に救われたのか、それらを疑似体験によって理解できないかと考え実施していただいた。約 10 分間の読経。足が徐々にしびれてくのに反して、心が救われていく気がした。

この授業については、外部講師に全てをお任せするのではなく、教科書の単元「鎌倉文化」の授業の一部として、こちら側から説明してもらいたいことや提示する教材について、具体的に打ち合わせをした上で実施した。事前の打ち合わせでは、特定の価値観を押しつけることがないことを十分確認した。以下、打ち合わせの資料と修行体験の様子・生徒の感想。

*御文・・・本願寺第八代蓮如上人が書かれた門徒への手紙

鎌倉仏教と浄土真宗について

〈日時〉 11 月 10 日 13:30～14:30

〈場所〉 開陽高等学校 管理棟 3F 簿記実習室 及び 管理棟 4F 礼法室（修行体験で使用）

〈内容〉

はじめに

- ・講師紹介、アイスブレイク（仕事内容や僧侶あるあるなど、リラックスタイム）

1. 仏教とは

2. 浄土真宗 誕生の背景

3. 開祖 親鸞について

- ・親鸞のプロフィールやおもしろエピソードなど

4. 浄土真宗の特徴

- ・「南無阿弥陀仏」
- ・「悪人正機」
- ・「他力本願」

5. 修行体験

- ・お経を読むなど、簡単にできる修行を体験

6. 質疑応答



※修行体験の様子

生徒の感想

もっと堅苦しい感じなのかな？と思っていたが、そんなこともなく、終始楽しいお話を聞くことができた。特に「悪人正機」についての話が興味深く、悪人の定義なるものが私たちの思うような悪人のことでなく、驚いた。違う考え方で面白かったので、そういったものも含め、もっと色々と調べてみたい。修行体験でのお経は、幼少期によくお寺に行っていたため、とても懐かしく感じた。(中間年次 女子)

この授業を受けていて、外部講師の方が来ていただいた時は驚きました。ですが、授業で浄土真宗をより詳しく勉強できてとても良かったです。実際に住職さんから直接話を聞けたので、とても印象に残っています。お経を読んでいただいたことも、いい経験になってとても良かったです。(中間年次 男子)

お坊さんというのは、堅苦しくて真面目な人というイメージがあったのですが、実際どこにでもいそうな普通の方だったので印象が変わりました。こうやって体験することで授業より詳しく知ることができ、記憶に残ると思うので良かったです。(中間年次 女子)

宗教と聞くと、近頃のニュース等を見ている中で、偏った思想の人々の団体という印象を持っていましたが、今回の講義を聴くと、自他共によりよく生きていくための教えを、宗教を通して学ぶことができることを知ることができました。人間が求める拠り所となる1つに、いつの時代も宗教があるということを改めて感じました。(中間年次 男子)

お坊さんがいらっしゃると聞いていたので、イメージで坊主の堅苦しい雰囲気の人に来るのかなあと思ったら、想像とは違ってリラックスして話を聞くことができました。学校でお経を聞くということはあまりないことだと思うので、貴重な体験ができたと思います。(中間年次 女子)

4 終わりに

以上、博学連携の取り組みについての感想を最後に述べたい。

まず、「黎明館レポート」について。26名を対象に課題を出したが、提出したのは11名に留まった。それは、日本史Aの授業において、動機付けができていなかったためだと反省している。授業で学んだ内容を、博物館等を利用し、さらに詳しく調べてみたいと生徒が思えるように授業改善をしていきたい。また、基礎的・基本的な知識を習得させ、訪問前のレディネス作りにもさらに力を入れていきたい。ワークシートの内容としては、「何について学ぶか」や「目標や到達点」をもっと明確にした構成にする必要があると思った。

次に、「県立図書館と連携したNIE」について。これは、偶然にもコラム購読の担当する回と県立図書館の企画の時期が重なったので実施することができた。またNIEを実施するにあたって、快諾してくださった県立図書館ならびに同資料課の方々に感謝の意を表したい。今後も同様の取り組みができないか、黎明館や県立図書館を巡り、教材を探索していきたい。

最後に、「外部講師による体験型授業」について。本校は1コマ90分授業であり、日本史Bは大学入試に対応する講座であるため、実施する価値があるか迷っていた。授業進度を考えると、鎌倉文化の鎌倉仏教に90分を割くわけであるから、効率的とは言いがたい。そのようなジレンマを抱えながら実施したわけだが、生徒の感想を見ると、「もっと色々と調べてみたい」や「とても印象に残っています」など前向きな内容も書かれていた。博学連携のねらいは「学習意欲の向上」と「自ら発見して、自ら考える」ことなので、生徒の内面でこちらが意図する変化があったように感じている。

この1年いくつかの博学連携の取り組みを行ってきたが、そのねらいである学習意欲と学力を向上させる効果

があったかどうかについてはわかりにくい。しかし学びの質が、「何を学ぶか」に加えて「どのように学ぶか」ということが重要になりつつある学校において、博学連携の視点は大切にしていきたい。多様な学習形態を構築することで、「自ら発見して、自ら考える」機会をつくってあげればと考えている。

5 参考文献等

- ・『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』 文部科学省（教育出版）
- ・『明治維新と郷土の人々』 鹿児島県
- ・『常設展示の世界 学習支援のための鹿児島の歴史と文化』 黎明館配布資料
- ・『西郷どん案内帖』 観光かごしま大キャンペーン推進協議会事務局
- ・『明治維新と鹿児島みて歩き』 観光かごしま大キャンペーン推進協議会事務局
- ・NHK 大河ドラマ『西郷どん』 www.nhk.or.jp/segodon/
- ・鹿児島市観光サイト よかところかごんま NAVI <https://www.kagoshima-yokanavi.jp/index.html>
- ・『歴史への興味関心を高め、歴史的思考力を育てる授業』 橋口勝嗣 平成 24 年屋久島高校紀要